

増田産業株式会社

# 2018年度 環境活動レポート

(対象期間:2018年10月～2019年 9月)



発行日: 2019年12月20日  
改定日: 2020年2月27日

## ご挨拶

増田産業株式会社は、産業廃棄物の処理を活動範囲とする企業です。昭和21年の設立以来、多くのお客様から絶大なる信頼とご支援を賜りながら今日まで堅実な経営に徹し、一步一步確実に前進することを目指して参りました。

今ここに、エコアクション21に基づく環境経営システムを構築し、運用することにより、全社員が環境意識を高め、環境負荷の低減に継続的に取組み、地球環境に優しい企業として歩み続けることを宣言します。

## 環境方針

当社は、地球環境の保全及び維持推進を最重要課題とし、循環型社会形成を担う企業として法を順守し、産業廃棄物の収集運搬事業をはじめとして、緑地樹木管理、環境整備業等を通じて環境汚染の予防、地域社会への貢献を目指し、環境にやさしい社会の構築に全社員が積極的かつ継続的に取り組めます。

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 二酸化炭素排出量の削減の為に省エネルギー(電力・ガソリン・軽油・都市ガス等の削減)に取り組めます。
3. 廃棄物の削減並びにリサイクル率の向上に努めます。
4. 水使用量の削減に取り組めます。
5. 化学物質の適正管理に取り組めます。
6. 事務用品等のグリーン購入に取り組めます。
7. 環境に配慮した収集運搬(車両の燃費管理等)に努めます。

制定日: 2015年 6月 15日  
改定日: 2016年 1月 20日

代表取締役 増田 昌弘

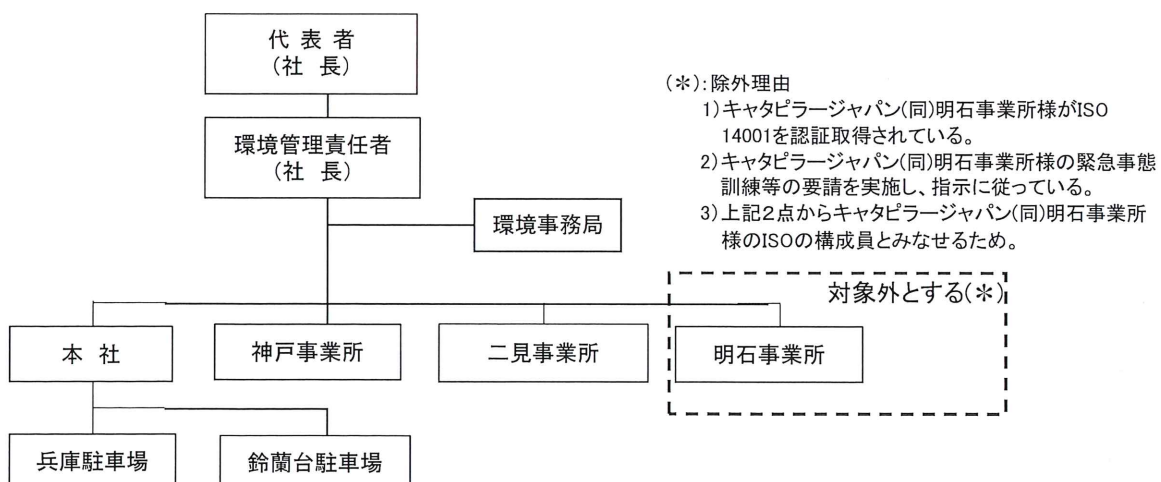
## II. 組織の概要(情報公開項目に\*印付記)

- (1) 名称及び代表者名  
増田産業株式会社  
代表取締役 増田 昌弘
- (2) 所在地  
本社 〒652-0863 兵庫県神戸市兵庫区和田宮通三丁目2番7号  
神戸事業所 〒652-8585 兵庫県神戸市兵庫区和田崎町一丁目1番1号  
三菱重工業(株)神戸造船所内  
二見事業所 〒674-0093 兵庫県明石市二見町南二見一番地  
三菱重工業(株)神戸造船所二見工場内  
明石事業所 〒674-0074 兵庫県明石市魚住町清水1106番地4号  
キャタピラー・ジャパン(同)明石事業所内  
兵庫駐車場 〒652-0815 兵庫県神戸市兵庫区三川口町3丁目2-26  
神戸～兵庫156号  
鈴蘭台駐車場 〒651-1112 兵庫県神戸市北区鈴蘭台東町5丁目2-1
- (3) 環境管理責任者及び担当者の氏名・連絡先  
責任者 代表取締役 増田 昌弘 TEL:078-651-7131  
担当者 総務主任 宇之木 淳 TEL:078-651-7131  
E-mail masuda-unoki@t-bb.jp
- (4) 事業内容  
産業廃棄物の収集運搬及び処理に伴う付帯工事全般業務  
緑地樹木管理  
金属商・機械工具商  
環境整備業  
労働者派遣事業  
有料職業紹介事業
- (5) \* 法人設立年月日 : 昭和21年8月1日
- (6) \* 資本金 : 12百万円
- (7) 事業の規模 : 394百万円 (2018年度実績)  
廃棄物収集運搬量 : 3,929 トン

	本社	神戸事業所	二見事業所	明石事業所	兵庫駐車場	鈴蘭台駐車場	合計
従業員	8名	23名	4名	5名	0名	0名	40名
延べ床面積	33.12㎡	40.15㎡	18.72㎡	14.89㎡	92.74㎡	190.33㎡	389.95㎡

- (8) 事業年度 10月～翌年9月
- (9) 認証・登録の対象組織・活動  
登録組織名 : 増田産業株式会社  
対象事業所 : 本社、神戸事業所、二見事業所、兵庫駐車場、鈴蘭台駐車場  
対象外事業所: 明石事業所  
  
活 動 : 産業廃棄物の収集運搬業及び緑地樹木管理

### (10) 組織図



(11) \* 許可の内容

■産業廃棄物収集運搬業許可

産業廃棄物の種類	産業廃棄物			特別管理産業廃棄物	
	兵庫県	三重県	奈良県	兵庫県	岡山県
許可自治体	兵庫県	三重県	奈良県	兵庫県	岡山県
許可番号	第02804014406号	第02400014406号	第02900014406号	第02854014406号	第03350014406号
許可年月日	平成31年2月13日	平成27年12月27日	平成29年12月13日	平成29年12月22日	平成27年1月29日
有効期限	令和5年2月12日	令和2年12月26日	令和4年12月12日	令和4年12月21日	令和2年1月28日
積替保管	無	無	無	無	無
許可品目	汚泥	●	●	●	●
	燃え殻	●			
	廃油	●	●		●
	紙くず	●	●		
	木くず	●	●	●	
	廃プラ類	●	●		
	金属くず	●	●		
	がれき類	●	●		
	ばいじん	●	●		
	廃アルカリ	●	●		●
	廃酸	●	●		●
	繊維くず	●	●		
	銻さい	●	●	●	●
	ガラスくず等	●	●	●	
*1			●		
感染性産業廃棄物				●	

(注)・ガラスくず等とは、「ガラスくず、コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。)&及び陶磁器くず」をいう。

・「\*1」は、工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたコンクリートの破片その他これに類する不要物をいう。

(12) \* 施設等の状況

■産業廃棄物収集運搬用車両

車種	最大積載量	台数
10t コンテナ車	11,500 kg	1
11t ダンプカー	8,300 kg	1
8t ユニック車	7,100 kg	1
4t コンテナ車	3,800 kg	1
2tトラック	2,000 kg	1
2t バッカー車	2,000 kg	3
軽4輪トラック	350 kg	1
軽4輪トラック(医療系)	350 kg	1

■積替え保管施設 - 無し

(13) \* 処理実績

■受託した産業廃棄物の収集運搬量

2018年度(2018年10月~2019年9月)

排出場所等	廃棄物等種類	処分方法等	処理量(t)
収集運搬(神戸)	鋳滓		834.360
	廃プラスチック		560.950
	木屑		432.720
	廃油		109.910
	汚泥		34.770
	蛍光灯		9.820
	ガラス屑		112.230
	廃酸		90.550
	金属屑		118.625
	乾電池		3.090
	医療系廃棄物		71.310
	廃アルカリ		98.490
	がれき類		45.780
	小計		2,522.605
収集運搬(二見)	鋳滓		997.960
	木屑		75.570
	汚泥		152.070
	廃プラスチック		69.130
	廃油		0
	ガラス屑		0
	廃酸		0
鋳滓(特管)		0	
小計		1,294.730	
収集運搬(明石)	廃プラスチック		59.970
	廃油		52.580
	ガラス屑		0
	汚泥		0
小計		112.550	
収集運搬量合計			3,929.885



### Ⅲ. 主な環境負荷の実績

項目	単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO <sub>2</sub>	101,430	120,014	131,841	
電力使用量	kWh	5,210	5,587	5,393	
ガソリン使用量	L	6,547	6,989	7,610	
軽油使用量	L	31,729	38,344	42,328	
都市ガス	m <sup>3</sup>	115	116	130	
産業廃棄物排出量	t	20	5	6	
一般廃棄物	kg	214	231	169	
化学物質使用量	kg	0	0	0	
総排水量	m <sup>3</sup>	84	260	187	

### Ⅳ. 環境目標及びその実績

#### (1) 中長期目標

項目	年度	基準年度	2017年度	2018年度	2019年度
		基準値 (2016年度)	目標	目標	目標
Ⅰ. 二酸化炭素 排出量合計	kg-CO <sub>2</sub>	101,430	100,416	99,401	98,387
	対基準(%)	100	(△1%)	(△2%)	(△3%)
①電力使用量削減	kWh	5,210	5,158	5,106	5,054
	kg-CO <sub>2</sub>	2,720	2,692	2,665	2,638
②ガソリン使用量削減	L	6,547	6,482	6,416	6,351
	kg-CO <sub>2</sub>	15,200	15,048	14,896	14,744
③軽油使用量削減	L	31,729	31,412	31,094	30,777
	kg-CO <sub>2</sub>	83,268	82,435	81,602	80,770
④都市ガス使用量の削減	m <sup>3</sup>	115	114	113	112
	kg-CO <sub>2</sub>	242	240	238	235
Ⅱ. 廃棄物排出量の削減	kg	214	212	210	208
	対基準リサイクル率(%)	65%	66%	66%	67%
①一般廃棄物の削減及びリサイ クル率の向上	対基準総量(kg)	100	(△1%)	(△2%)	(△3%)
	リサイクル率 (%)	90%	95%以上	95%以上	95%以上
②産業廃棄物(自社)のリサイク ル率の向上	対基準(-)	—	—	—	—
	リサイクル率 (%)	90%	95%以上	95%以上	95%以上
Ⅲ. 水使用量の削減	m <sup>3</sup>	70	69	69	68
	対基準(%)	100	(△1%)	(△2%)	(△3%)
Ⅳ. 化学物質の適正管理	使用量(kg)	0.0	0.0	0.0	0.0
	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
Ⅴ. グリーン購入 事務用品等のグリーン購入金額 比率の向上	比率(%)	52%	53%	53%	54%
	対基準(%)	100	(+1%)	(+2%)	(+3%)
Ⅵ. 環境配慮 受託した産業廃棄物の収集運搬 における環境配慮 (収集運搬車の燃費向上)	km/L	2.91	2.94	2.97	3.00
	対基準(%)	100	(+1%)	(+2%)	(+3%)

※電力による二酸化炭素排出量は、関西電力(株)の平成25年度の二酸化炭素排出係数 0.522 kg-CO<sub>2</sub>/kWhを用いて算出した。

## (2)2018年度の実績

項目	年度	基準年度	2018年度における実績			
		2016年度	(2018年10月～2019年9月)			
		基準値	目標	実績	達成度(%)	評価
I. 二酸化炭素 排出量合計	kg-CO <sub>2</sub>	101,430	100,416	131,841	76%	×
	対基準(%)	(100%)	(△1%)	129%		
①電力使用量の削減	kWh	5,210	5,158	5,393		
	kg-CO <sub>2</sub>	2,720	2,692	2,815	96%	△
	対基準(%)	(100%)	(△1%)	103%		
②ガソリン使用量の削減	L	6,547	6,482	7,610		
	kg-CO <sub>2</sub>	15,200	15,038	17,669	86%	×
	対基準(%)	(100%)	(△1%)	116%		
③軽油使用量の削減	L	31,729	31,412	42,328		
	kg-CO <sub>2</sub>	83,268	82,435	111,083	74%	×
	対基準(%)	(100%)	(△1%)	133%		
④都市ガス使用量の削減	m <sup>3</sup>	115	114	130		
	kg-CO <sub>2</sub>	242	240	274	88%	×
	対基準(%)	(100%)	(△1%)	113%		
II. 廃棄物排出量の削減	リサイクル量(kg)	139	140	118	リサイクル率	
①一般廃棄物の削減	総量(kg)	214	212	169	104%	
	リサイクル率(%)	65	66	69	総量	○
	対基準リサイクル率(%)	(100%)	(+1%)	106%	125%	
	対基準総量(kg)	(100%)	(△1%)	126%		
②産廃リサイクル率の向上	リサイクル量(kg)	18	18	6.44		
	総量(kg)	20	19	6.44		
	リサイクル率(%)	(90%)	(95%以上をキープ)	100%	111%	○
	対基準総量(%)	(100%)	(△1%)	32%		
III. 水使用量の削減	m <sup>3</sup>	70	68	187		
	対基準(%)	(100%)	(△1%)	275%	36%	×
IV. 化学物質の適正管理	使用量(kg)	0.0	0.0	0.0		
	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	適正	○
V. グリーン購入	グリーン購入額	17,550	—	33,176		
	総購入額	19,640	—	54,687		
事務用品等のグリーン購入 金額比率の向上	比率(%)	52	53	61	115%	○
	対基準(%)	100	(+1%)	117%		
VI. 環境配慮						
①受託した産業廃棄物の収集運搬 における環境配慮 (収集運搬車の燃費向上)	km/L	2.91	2.94	3.07	104%	○
	対基準(%)	100	(+1%)	105%		

注) 評価欄 ○: 達成(100%以上)、△: やや未達成(90%以上)、×: 未達成(90%以下)

V. 環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
二酸化炭素排出総量: 131, 841kg-CO <sub>2</sub> (詳細は下記の通り)	×	当社の二酸化炭素排出量の97%は化石燃料のため次年度は以下の活動を中心に行う。 ①エコドライブの再教育を行いエコドライブの意識を高める。 ②収集運搬の効率的なルートを再構築して軽油使用量の削減を図る。 ③省エネ車両への計画的な切替を検討する。
<b>電力による二酸化炭素排出量の削減</b>		
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	電力使用量は、エアコン使用による影響が大きかったが空調温度の適正化のもと、12・6・7・8月と実績値が目標値を下回った。今後も節電し、不必要な照明、無駄な電力使用を徹底して削減していきます。
・昼休みの消灯	○	
・不要照明の消灯	○	
・OA機器の省エネモード設定	○	
<b>自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減</b>		
<b>・ガソリン</b>		
・アイドリングストップ	○	2台の増車によりガソリン使用量は増加しましたが、アイドリングストップ・急発進・急加速等を要しないエコ運転に徹しています。
・急発進、急加速の抑制	○	
・効率的なルートで営業	○	
<b>・軽油</b>		
・アイドリングストップ	○	廃棄物量の増加により軽油使用量も比例して増加しましたが、アイドリングストップ・急発進・急加速を要しないエコ運転を心掛け軽油使用量の削減を図ります。
・急発進、急加速の抑制	○	
・適正な車両の整備	○	
・効率的なルートで収集運搬	○	
<b>都市ガス</b>		
・エアコンの温度管理	○	主用途の床暖房とクーラーの温度管理を適正に管理し、使用量の削減を図る。
・適切なオン、オフの管理	○	
<b>一般廃棄物の削減</b>		
・分別の徹底	◎	物量増となっているが、システムに則りきっちりと処理されるようになり、リサイクル率が向上している。このまま活動を継続していきます。
・リサイクルの推進	○	
<b>産業廃棄物のリサイクル率の向上</b>		
・分別の徹底	○	目標リサイクル率をクリアできた。今後も分別の徹底推進を図り、リサイクル率の向上に努力します。
・分別によるリサイクルの推進	◎	
<b>節水</b>		
・節水運動	○	社員の福利厚生の一環として洗濯機を増設したことにより水道使用量が増加した。節水に徹するよう社員の意識向上、教育をし節水運動に努め削減を図る。
・洗車管理	○	
<b>化学物質の適正管理</b>		
・使用量・在庫管理	◎	PRTR法該当薬品の使用はありません。(SDS入手、確認済) 化学物質の使用に際しては、適正管理に努めます。
・識別表示	○	
・空容器処分	◎	
<b>グリーン購入</b>		
・事務用品グリーン購入金額比率の向上	◎	目標達成。G購入対象外物品の代替品を事前に調べておき、一品でもG購入品に切り替えていきます。
<b>収集運搬車における環境配慮</b>		
・燃費向上運動	○	目標をほど達成できた。今後も燃費向上の意識を持ち続け、粘り強く活動を続けます。
・エコドライブの実践	◎	



## VI. 環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守すべき要求事項(施設・物質・事業活動等)	遵守評価
廃棄物処理法	・一般廃棄物収集業者の委託基準	遵守
	・産廃収集運搬、処理業者の許可確認及び書面委託	遵守
	・再委託の禁止	遵守
	・マニフェストの交付及び管理	遵守
	・マニフェスト不交時の引き受け禁止	遵守
	・処理困難時の通知又は通知受け時の措置及び報告書	該当なし
	・産業廃棄物処理基準の順守	遵守
	・自社による運搬時の表示、書類携行	遵守
自動車NOx・PM法	・対策地区内で排気ガス規制に適合した自動車の使用	遵守
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	・特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善を促進する	遵守
オフロード法	・基準に適合した特定特殊自動車の使用	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、当該期間中に関係当局からの違反、訴訟、或いは環境上の苦情等はありません。

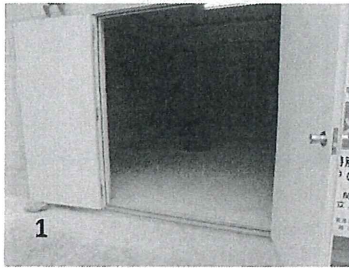
## VII. 代表者による全体の評価と見直し

2018年度の環境活動を終え全体の評価をしたところ、良い結果と削減が思うように進まなかったところがあった。良い結果としては収集運搬における燃費の向上が挙げられる。年間を通して目標値をクリア出来たことは環境教育訓練を行い社員教育の徹底と社員のエコ運転への自覚が再認識され社員一丸となって二酸化炭素排出量の削減に努めたものと思われる。その他、一般廃棄物と産業廃棄物は分別の徹底によってリサイクル率の向上が図れた。事務用品のグリーン購入比率も社員教育の徹底で目標値をクリア出来たことは社員のエコ活動の賜物と考えらる。削減が思うように進まなかった今後の課題として環境方針に定めた2(電気・ガソリン・軽油・都市ガス)の削減です。軽油については仕事量の増加(廃棄物量の増加)でトラックの稼働が増えたことにより軽油使用量が増加し二酸化炭素排出量の削減実績値を昨年度より上回った。このことは取引先の廃棄物量に比例して軽油使用量も増減するため今後の課題でもあります。しかしながら環境方針は全社員に浸透し積極的かつ継続的に取り組み良い結果が出るように今後も継続してエコ活動を推進していく。

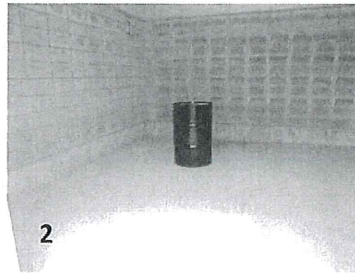
2019年12月20日

代表取締役 増田 昌弘

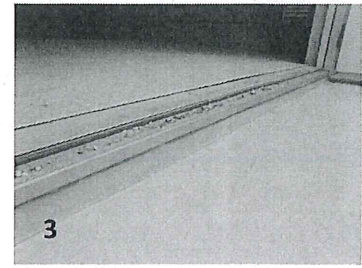




1 保管している高濃度PCB廃油

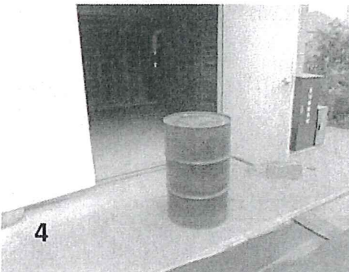


2



3

入口段差が10cmほどある



4

搬出時は、段差をなくす対策が必要であることを確認した



5

吊具、玉掛けワイヤーの点検



6

シャクルの点検



7

点検よし!

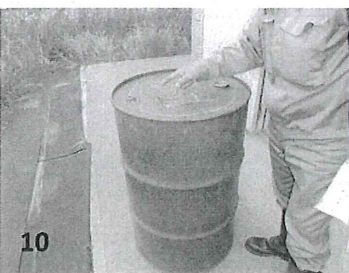


8

吊る前の蓋を増締め点検実施。

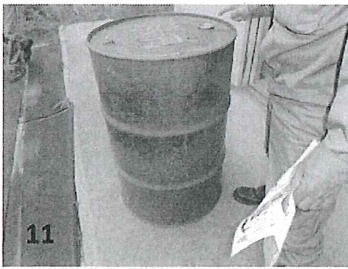


9



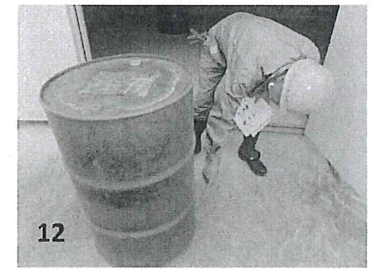
10

蓋締付よし! 小側



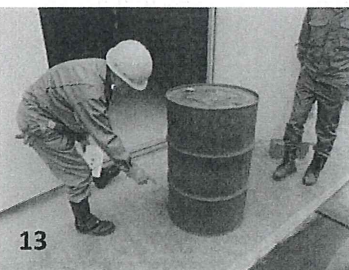
11

蓋締付よし! 大側



12

ドラム缶全体のへこみ、錆、漏洩はないか?



13

漏洩はないか!



14

運搬開始!



15

ローダーにより玉掛けをする

以上